

すぎなみ大人“熟”してる？

J u k u s i t e r u ? T I M E S ' 1 3

平成25年8月3日発行

発刊元：塾熟出版（事務局）

東京都杉並区梅里 1-22-32(社会教育センター内) TEL 3317-6621 FAX 3317-6620

VOL.6

7月20日
土曜コース

哲学する対話をやってみる② 対話の「型」に従って進めてみよう



お手本チームのお題 「大人になるって?」

僕、
ファシリ

私、
お題提供者



大人になりたくない〜♪

<対話の型をやってみて...>

- ・誰がファシリテーターなのかを明確に！
- ・「問いへの質疑応答」では確認のみ、話を始めない。
- ・何が今論点なのか明確にする。
- ・一つの時間帯にひとつのことを話す。
- ・ファシリテーターが、自己紹介などを含めロールモデルになる。

■対話の「型」が重要な理由

広石さんを中心に、まるっと座っている5名。今回は、対話のデモンストレーションをこのメンバーで行ってもらい、参加者は周りで見学して、チェックして学ぶという試みからスタート。学ぶことは「型」に従った、対話の進め方である。前回の感想の中に、「対話の中でそれぞれが全く違うレベルで話しているとき、どうかみ合わせるか難しい」など、切実な悩みが多数あった。そこで、対話のプログラムの中に、「ファシリテーターの役割」を組み込んでしまう、そんな対話の「型」を活用することにした。その「型」に従って対話を進めていくことで、まずはファシリのコツをつかむ。そして、使いこなすことにより、段々と自由にできるようになっていくのだ。広石さん曰く、華道や舞踊などと同じ。今日はその「型」に従って対話を進めてみるのが、目的である。

■デモンストレーションが役にたった！

目の前で行われたお手本を見て、受講生のみなさんは、「なるほど！」と納得したことが多かった様子（一言感想より）。わかっている、なかなか話したす人を止めることができない、でも止めていいんだ！そんなことも、実感したようだった。

■今回もお題提供者登場！

対話の進め方の勉強のあとは、6つのお題が発表され、チーム分けをして対話が行われた。今回も学びの成果は一言感想にあり。別紙を見ていただきたい。型を意識して対話を進めることに手ごたえを感じた様子が、感想に表れていた。そして、対話の内容だけでなく、ファシリにも少しだけ自信が持てたようだ。

哲学対話でずっと言われていること。それはぶれない軸を持つこと、対立を恐れず、しんどさに耐えて踏ん張る。すこしづつそのあたりも実感をともなってきたようだ。次回はいよいよチーム作り。踏ん張っていこう！（記事：湊）

本日の問いの「お題」6つ

- ① 価値観のちがう人とわかりあえるか
- ② 人はどこまでわかりあえるか
- ③ 人は他者にどこまで責任を負うべきか
- ④ 人生の価値とは何なのか
- ⑤ 哲学は必要か
- ⑥ 常識とはなにか 普通とはなにか



皆で静かに熟く、深く議論



本日の6勇士のみなさん



「だがしや楽校」開催へ向けて準備しよう!

◆チラシをつくる上で必要なことは?

ニコニコロードでの「だがしや楽校」開催を直前に控えた夏の朝。今回は、「だがしや楽校」を周知するためのチラシづくりから始まった。2つのグループに分かれ、さあつくみましょう、となったが、なかなかすぐには難しい。

ここで、「まずはチラシに必要な項目をもう一度確認してみましよう」と松田さんからのアドバイスが。改めてチラシの項目について考えると、大まかに〈開催日時〉、〈場所〉、〈連絡先〉、〈主催〉そして〈内容〉が必要だ。これをもとに「だがしや楽校」で決定していることを挙げてみると…、あれっ、内容は?

実は、誰が何をするのかの調整がまだだったのだ。それでも、これまでの受講生のみなさんは、3回の講座でそれぞれの持ち味を把握していたようで、話し合いの結果すぐに「美味礼画」、「海と貝がらで夏気分」、「ピアノと唄」、「すぎなみの鳥アートとすてきな額縁の展示」の4店が出店決定となった。(詳細は右記参照)

朝から午後までの準備お疲れさまでした!



↑午前中チラシをカキカキ。

↑お昼はみんなでランチ会。

↑下見はバッチリ!

↑午後はニコニコロードへ下見にテクテク。

だがしや楽校出店者・内容

8月4日(日)午後4時~6時@ニコニコロード

出店者;内容

- 小峯;「美味礼画」…旅行先で食べた料理の手描きカードです。
- 石川;「海と貝がらで夏気分」…沖縄で拾った様々な貝がらプレゼント!
- 林野・田中;「ピアノと唄」…誰でも知っている唄を一緒に歌いましょう。
- 足立・川名;「すぎなみの鳥アートとすてきな額縁の展示」…野鳥の水彩画を手製の額でアレンジ。

→受講生作成の
チラシ



◆自分の経験や学びの分かち合い

「ピアノと唄」の林野さんと田中さん、「鳥アートと額縁展示」の足立さんと川名さんは、当初別々に出店予定だった。それがチラシづくりや準備の中で「コラボしてみませんか」とお誘いし合い、“合作自分みせ”になったのは興味深い。

1人のこれまでの経験や学びが2人、3人と分かち合うことで、個人の学びにとどまらず、学び合う組織として形づくられているのだ。「だがしや楽校」のそんな営みが垣間見えた瞬間だった。8月4日の開催が待ち遠しい。(坂本)

《コラム》だがしや楽友たちは今

これまでのだがしや楽校を卒業された様々な持ち味を持った方々に、筆者がインタビューするこのコーナー。

卒業生から、みなさんに向けた生の声をお届けします。「この人と一緒に何かしたい!」という方は事務局まで!

3回目は、24年度のだがしや楽校を卒業された、齋藤さん。持ち味はお孫さんと遊ぶために始めた折り紙。講座内の自分みせで披露したことをきっかけに、今ではNPOに入り児童館で子どもたちに教えています。

さて、この方にとっての「だがしや楽校」とは?



□だがしや楽校ネットワークをつくりたい

坂本(以下、坂):「最近の様子を教えてください」
 齋藤(以下、齋):「児童館で子どもたちに折り紙を教えてください。イベントで折り紙ワークショップもしています。」
 坂:「あなたにとって、だがしや楽校とは?」
 齋:「相互に学び合う場ですね。バクトルの違う人たちが集まっていたので、いろいろな人の持ち味に触れることができました。」
 坂:「読者に向かってひとことどうぞ!」
 齋:「だがしや楽校の全国的なネットワークができればいいな、と思います。他の地域のことも知りたいですね。」

◆すぎなみ大人”熟”してる?の発行にあたって◆

この新聞は事務局スタッフの独断と偏見と多少の事実に基づき作成しております。